

■令和3年度調査研究の外部評価

熊本県保健環境科学研究所では、県民の安心安全な生活を守るため、専門的で高度な施設及び機器類等を備え、様々な課題の解決に向けた試験検査、調査研究に取り組んでいます。

なお、当研究所で実施する調査研究について、県民ニーズに合致した効率的・効果的な業務の遂行とその透明性の確保を図るため、研究計画や成果に関する外部評価委員会による評価を行いました。

- 1 開催日
令和4年3月16日
- 2 委員
学識経験者等5名
- 3 評価対象
成果評価（調査研究の目的の達成度、行政施策への寄与度等）を評価）・・・2件
中間評価（調査研究の進捗状況、継続の妥当性等）を評価）・・・なし
計画評価（計画段階で調査研究の目的、内容の妥当性等）を評価）・・・なし
- 4 評価方法
項目別評価、総合評価とも次の5段階で評価する。
5：非常に高く評価できる。
4：高く評価できる。
3：評価できる。
2：あまり評価できない。
1：評価できない。
- 5 評価結果

【1】成果評価

(1) 調査研究課題	
SFE-GC/MS/MSによる農産物中農薬の一斉分析法に関する研究（H30～R1）	
(2) 項目別評価	
①研究目的の達成度	5
②衛生行政・環境行政施策への寄与度	5
③学術的意義又は技術開発への寄与度	5
④県民ニーズへの波及効果	4
⑤今後の発展性	5
(3) 総合評価	5
(4) 委員のコメント	
○県民の健康被害拡大防止や食に対する不安軽減に寄与する価値のある研究である。	
○本分析法は汎用性が高く、前処理の効率化により、結果が得られるまでの時間短縮や分析にかかる操作の工数が低減できるなど高く評価できる。	
○分析法の開発は県民ニーズに沿っており、県民や他県へアピールするためにも、その公開方法について工夫改善が必要である。	
○分析法の開発に当たっては、分析に伴う消耗品等のコストだけでなく、GC/MS/MSという分析機器そのものの価格や機器のメンテナンスに要する経費等も含めて議論すべきである。	

(1) 調査研究課題	
動物由来感染症病原微生物保有状況調査 (H30～R2)	
(2) 項目別評価	
①研究目的の達成度	4
②衛生行政・環境行政施策への寄与度	5
③学術的意義又は技術開発への寄与度	4
④県民ニーズへの波及効果	4
⑤今後の発展性	4
(3) 総合評価	4
(4) 委員のコメント	
<p>○野生動物の薬剤耐性菌の保有状況調査は、ジビエ処理や保護動物譲渡の安全に繋がり、衛生環境行政への寄与度が大きいことから、継続して実施していく必要がある。</p> <p>○今後は、他県と比べてどうか、地域別の保有率はどうか、など俯瞰することで新たな成果に繋がるものと思われる。</p> <p>○今回の成果を広く県民に伝えることで、保護動物の飼養やジビエ食材による感染リスクについて、広く啓発する必要がある。</p> <p>○寄生虫検査において、鞭虫卵はホルマリン・エーテル法等の遠心沈殿法が良いので検討のこと。</p>	